

吉長 紫苑

YOSHINAGA Shion



変わらないまま、変わり続ける

鉛筆、色鉛筆、紙

## 変わらないまま、変わり続ける

ひとつのカラダを描いて、そのカラダを割いた。  
欠けたカラダに繋がるように、新しいカラダを描いた。  
そのカラダを割いた。  
欠けたカラダに繋がるように、また新しいカラダを描いた。  
描いて、それを割いて、描いて、また割いて、新しいカラダを描いた。

人のような作品を作りたいと思いました。  
人のような、というのは、「みんな同じで、みんな違う」ということではないかと思います。  
自分以外の他の誰にもなれないということ、ずっと生まれたてのままの自分ではいられないということ、そして、いつか死ぬということは、すべての人に共通していることだと思っています。だから、それらを表現することができる一つの作品を作りたいと考えました。  
人が、生まれてから死ぬまで、他の誰でもなくその人のままであるように、この作品は、1枚目に描いた姿が、かたちを変えながらも、ずっと同じ存在のまま続いています。  
人が、食べ物を食べ、細胞が入れ替わりながら見た目が変化していくように、この作品は、徐々にかたちが変わりながら続いています。  
また、「自分らしく生きよう」という言葉は、よく耳にします。しかし、その人たるものを形成しているのは、肉体的な面においても精神的な面においても、自分以外の、自分の外側にある存在なのではないかと思います。例えば、私が子供の頃に当たり前だと思っていたことは、当時の学校の教科書に書いてあること、またはその時身近にいた人たちや、見知らぬ人たちの言動によるものであって、その当たり前は普通ではない、または絶対的なものでないと、後になって分かったことはいくつもありました。そのようなことは、きっとこれからもたくさんあって、その度に、私は彼らに影響を受けながら生活していくのでしよう。  
現時点では、この作品はまだ完成していません。この制作は、私が何かしらの理由で描けなくなった時(例えば死んだ時)に終わります。  
この先この作品がどうなっていくのかは、はっきりとはわかりません。私が途中で投げ出す可能性もあります(そうならないことを願っていますが)。  
それでも、今後も変わり続けていく自分を知りながら、私という他者によって作られていくこの作品を、どのような形であれ、これからも続けていきたいと思っています。